

〔下〕此義はかへつて御見物様の御しかりをうける
やうなものでまた来年かさらい年は参らねば
ならぬから御見物様方の御きげんをそんなしてはと
たつてじたいを任り升ルをそんなら一寸口上を
申上るがよいと申升レどこれも口ぶちやうほうゆへ
わたくしに申上てくれとたのみ升ルゆへどうで
上るり一ト場出さねばならぬ事ゆへそのなかへ
さしくわへ御なごりを任り升ルやうにと申升て
ムリ升るまた〳〵これなる冠十郎義も帰坂の
事にムリ升レどちとわけあつてこれは
御当地にのこりめうだいとして倅冠の助
義を徳三郎同道にて帰坂いたさせ
升ルやうにムリ升ル此ものもいまだ
若輩みじゆくもの義にムリ升れば
末〳〵にては役者の数にも入り升る
やう偏にこひねがひ奉り升ル
まづは右徳三郎御なごりの口上
すみからすみまでづらりと
左やうに思しめし
下さり升ふ